

# 決算補足説明資料

2023年12月期 第3四半期

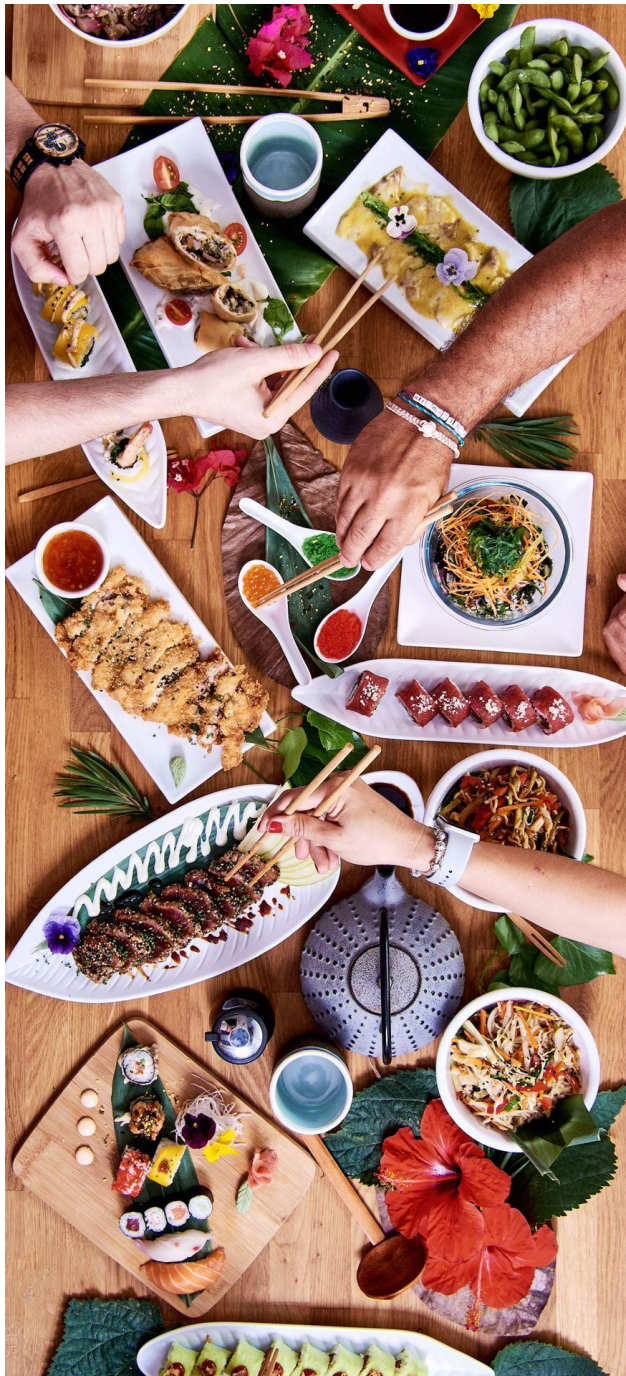
西本Wismettacホールディングス株式会社

2023年11月13日





Table of Contents



1. サマリー
2. 2023年12月期第3四半期 決算概要
3. 株主還元の方針
4. (参考) 中期経営計画 (抜粋)
5. (参考) Wismettacグループについて

## 2023年12月期 第3四半期決算

- ◆ 上期に引き続きアジア食グローバル事業が業績を牽引、前年同期比で増収増益を達成。

前年同期	売上高	2,023億円	営業利益	83億円	経常利益	87億円	四半期純利益	57億円*
<b>当期</b>	<b>売上高</b>	<b>2,236億円</b>	<b>営業利益</b>	<b>88億円</b>	<b>経常利益</b>	<b>99億円</b>	<b>四半期純利益</b>	<b>67億円*</b>

(\*) 親会社株主に帰属する四半期純利益

## 2023年12月期 通期業績予想の修正

- ◆ 第3四半期決算までの実績および足元の状況等を勘案し、通期業績予想における経常利益を上方修正。

修正前【第2四半期開示】	売上高	3,040億円	営業利益	120億円	経常利益	125億円	当期純利益	75億円*
<b>修正後</b>	<b>売上高</b>	<b>3,040億円</b>	<b>営業利益</b>	<b>120億円</b>	<b>経常利益</b>	<b>135億円</b>	<b>当期純利益</b>	<b>75億円*</b>

(\*) 親会社株主に帰属する当期純利益

- ◆ 通期予想における期中平均為替レートは変更なし。(1 \$ = 135円)

## 中期経営計画 2024-2026

- ◆ 2023年10月、Wismettacグループの中長期的な事業方針や取組み、目標を公表。
- ◆ **2026年に既存事業のOrganic成長(\*)で売上高5,000億円・営業利益250億円を達成する。** (\* ) 実施予定のM&Aを含む
- ◆ 営業CF・新規資金調達により、**1,000億円の戦略投資枠**を設定する。
- ◆ 詳細は、10月16日開示資料「[中期経営計画 \(2024-2026\) の策定について](#)」をご参照。



Table of Contents

1. サマリー
2. **2023年12月期第3四半期 決算概要**
3. 株主還元の方針
4. (参考) 中期経営計画 (抜粋)
5. (参考) Wismettacグループについて

# 2023年12月期第3四半期 決算概要

## 2023年12月期 第3四半期決算

- ◆ 売上高は前年同期比10.5%の増収
  - アジア食グローバル事業(以下、AFB事業)は、各地域での堅調な販売状況のもと、前年同期比で増収
  - 農水産商社事業については、輸入青果および冷凍加工食材の出荷が順調に推移し、前年同期比で増収
- ◆ 営業利益は前年同期比5.9%の増益
  - 主力のAFB事業は、堅調な販売状況に加えて、アジア・豪州を中心に利益率が前年同期比で改善。農水産商社事業においても、国内向け事業を中心に価格調整による利益確保に努め、グループ全体で前年同期比で増益

(単位：億円)

		2022年12月期		2023年12月期		前年同期比		【参考】業績予想 通期* 進捗率	
		第3四半期		第3四半期					
				(7-9月)		(7-9月)			
業 績	売上高	2,023	716	2,236	773	+213	+10.5%	3,040	+73.6%
	売上総利益	407	140	460	162	+54	+13.2%		
	営業利益又は損失(△)	83	23	88	31	+5	+5.9%	120	+73.4%
	経常利益又は損失(△)	87	22	99	35	+13	+14.6%	135	+73.6%
	親会社株主に帰属する四半期純利益 又は損失(△)	57	12	67	23	+10	+17.8%	75	+89.2%
円ドルレート(期中平均)		128.05円		138.11円		+10.06円			
1株当たり四半期純利益又は損失(△)		395.70円		466.32円		+17.8%			

\*修正後業績予想数値  
p.2 参照

# 2023年12月期第3四半期 セグメント別概況

## アジア食グローバル事業 (AFB)

- ◆ 売上高は前年同期比10.6%の増収（北米 同+9.5%、欧州 同+16.2%、アジア・豪州地域 同+14.8%）
  - 大手グローバルチェーンへの販売拡大、欧州チェーンレストラン向けの販売好調等、各地域での営業戦略が奏功
- ◆ 営業利益は前年同期比10.1%の増益。北米では利益率が低下したものの、アジア・豪州地域等の利益率が改善し、AFB全体では前年同期比で増益

## 農水産商社事業

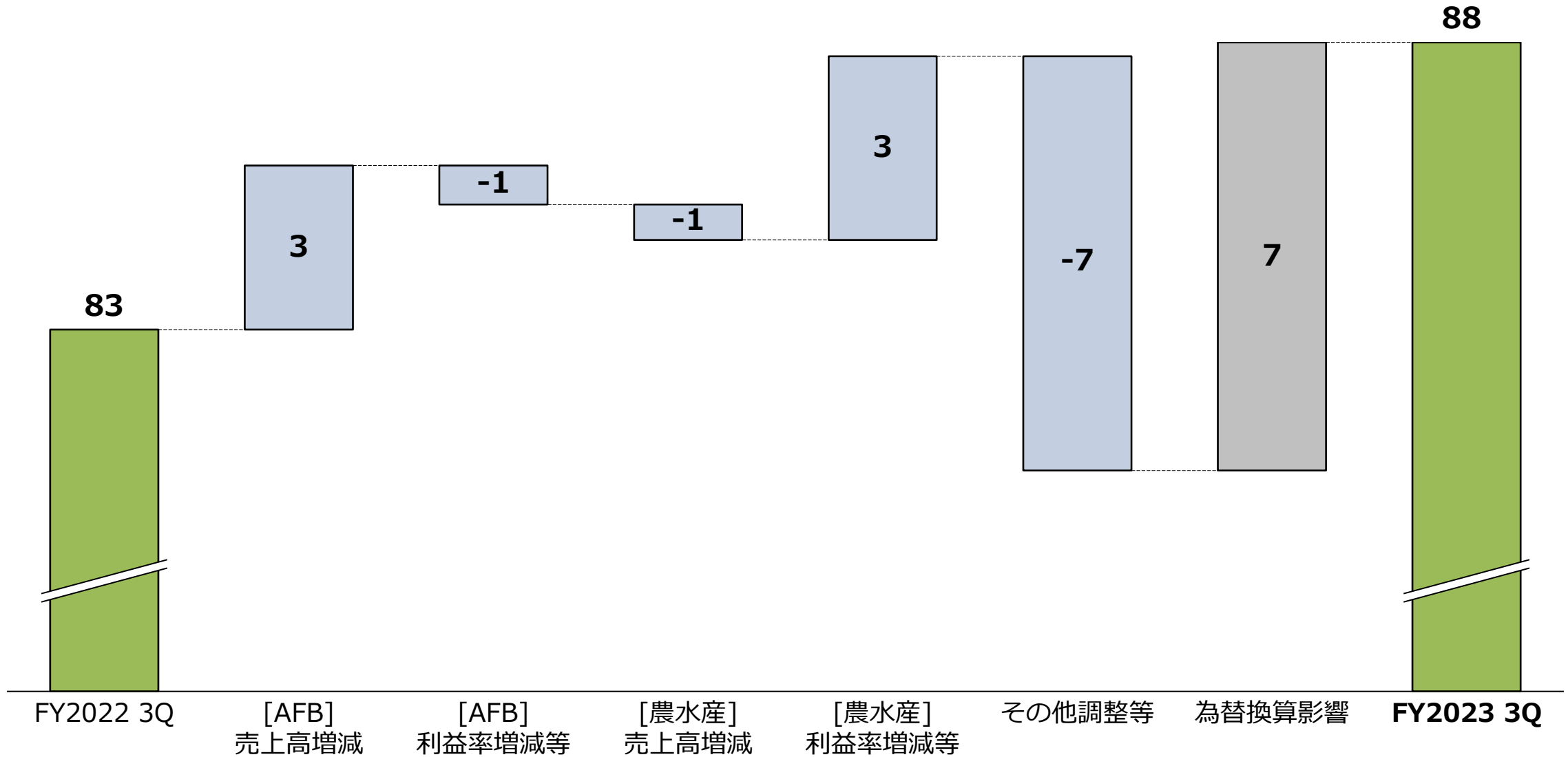
- ◆ 前年同期は、物流の混乱や急激な円安の進行等による仕入原価の高騰が売上にも大きく影響。当期も円安等の影響は残るものの、物流状況は改善。主力の輸入青果、冷凍加工食材の出荷が順調に推移し、前年同期比で増収
- ◆ 冷凍加工食材を中心に、価格調整による利益率改善に努めた結果、前年同期比で増益

(単位：億円)

事業セグメント		2022年12月期		2023年12月期		前年同期比		[為替換算影響控除後] 前年同期比	
		第3四半期		第3四半期					
			(7-9月)		(7-9月)				
AFB	売上	1,578	574	1,746	611	+168	+10.6%	+45	+2.8%
	営業利益又は損失(△)	97	31	106	39	+10	+10.1%	+2	+2.2%
農水産商社	売上	421	134	463	153	+42	+10.0%	+36	+8.6%
	営業利益又は損失(△)	▲ 6	▲ 5	▲ 4	▲ 3	+2	-	+3	-
その他	売上	25	8	27	9	+3	+11.0%	+3	+11.0%
	営業利益又は損失(△)	▲ 2	▲ 1	▲ 2	▲ 1	+0	-	+0	-
調整項目	売上	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益又は損失(△)	▲ 5	▲ 2	▲ 12	▲ 4	▲ 7	-	▲ 7	-
合計	売上	2,023	716	2,236	773	+213	+10.5%	+83	+4.1%
	営業利益又は損失(△)	83	23	88	31	+5	+5.9%	▲ 2	▲ 2.8%

# 営業利益 主な増減要因 (前年同期比)

単位：億円



# 連結貸借対照表（要約）

## 財務方針

◆ プライム市場における持続的な成長のため、健全な財務基盤を維持しながら、積極的な事業拡大に向けた投資と安定的な配当を両立

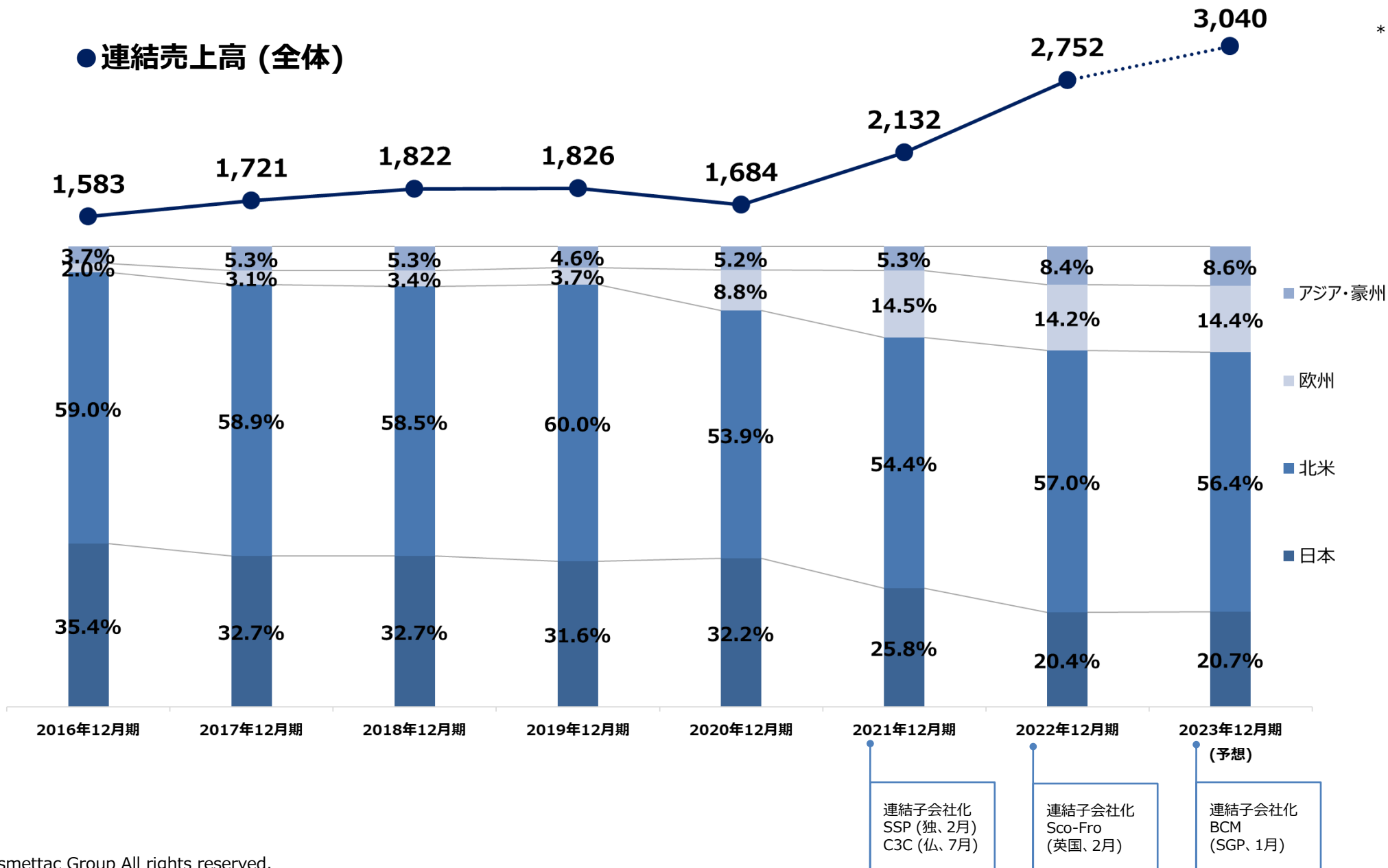
(単位：億円)

		2022年12月末	2023年9月末	増減額/率	主要な増減項目
資産合計	流動資産	1,510	1,777	+267	現金及び預金 +213
	固定資産	282	318	+36	リース資産(純額) +17
		1,792	2,095	+302	
負債合計	流動負債	336	394	+58	仕入債務 +32
	固定負債	735	856	+121	長期借入金 +100
		1,072	1,251	+179	
純資産合計		721	844	+123	為替換算調整勘定 +87 利益剰余金 +45
負債・純資産合計		1,792	2,095	+302	
円ドルレート（期末レート）		132.70円	149.58円	+16.88円	
自己資本比率		40%	40%	+0pt	中計目標値 30~40%
流動比率		449%	450%	+1pt	

- 前期末(2022年12月末)について、一部の海外子会社における税効果会計に係る基準の変更を遡及適用
- 遡及適用による総資産および親会社株主に帰属する当期純利益に対する影響額は、いずれも軽微



# 地域別売上構成比率



# 2023年12月期 業績の進捗 (既存・新規別)

計画前提

通期連結業績予想における円ドル為替は、1\$=135円を想定

単位：億円

		FY2022 実績	FY2023 予想	FY2023 3Q累計	FY2023方針
全社	売上	2,752	3,040	2,236	<ul style="list-style-type: none"> <li>需給バランスの正常化による利益率の低下やインフレ加速による販管費増の逆風はあるが、グループ全体での増収増益を達成する</li> </ul>
	営利	105	120	88	
既存	売上	2,613	2,862	2,116	<ul style="list-style-type: none"> <li>AFBでは北米の好調維持とともに、北米以外で利益率の改善を進める</li> <li>農水産商社は逆風はあるものの、着実に利益改善を進める</li> </ul>
	営利	125	134	101	
AFB	売上	2,129	2,328	1,715	<ul style="list-style-type: none"> <li>需給バランスの正常化により食原材料の利益率低下やインフレによる販管費増はあるものの、小売向けの加工食品の強化や北米以外での利益増加を進める</li> </ul>
	営利	130	135	103	
農水産	売上	446	494	375	<ul style="list-style-type: none"> <li>産地での品質問題の継続や円安進展による輸入青果の逆風が継続も、商品ごとの戦略の明確化と、仕入・販売計画の精度向上により収益改善を着実に進める</li> </ul>
	営利	▲5	▲1	▲1	
国内 BtoC	売上	38	41	27	<ul style="list-style-type: none"> <li>足元の円安進展により利益率への影響は大きいものの、取扱商材の拡大、販路拡大を進める</li> </ul>
	営利	0	▲0	▲1	
新規	売上	139	178	120	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たなビジネス創出に向けた投資を継続する一方、新たな販路向け売上の拡大に注力 (次頁参照)</li> </ul>
	営利	▲20	▲14	▲13	

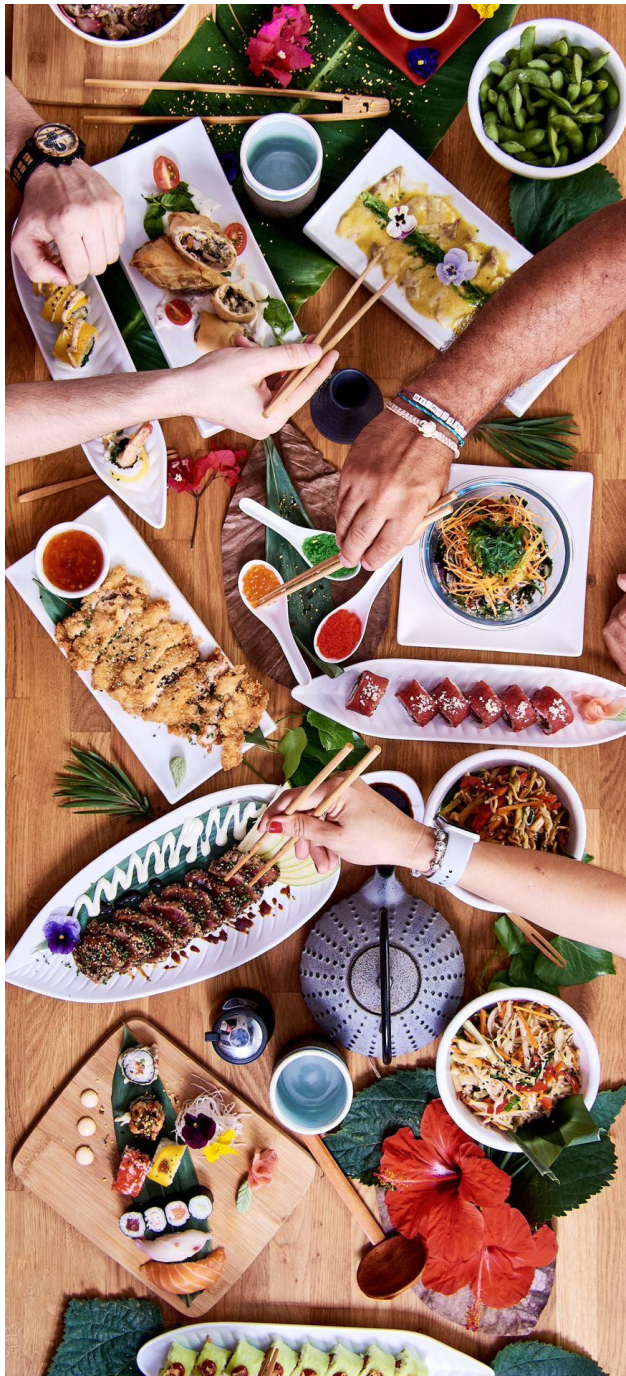
# 2023年12月期 業績の進捗 (既存・新規別)

単位：億円		FY2022 実績	FY2023 予想	FY2023 3Q累計	主な事業内容	FY2023方針
新規	売上	139	178	120	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな販路の開拓</li> <li>新ソリューション開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>買収企業の顧客基盤を活用して売上を伸長</li> <li>その他ソリューション事業ではPDCA体制を確立</li> </ul>
	営利	▲20	▲14	▲13		
AFB	売上	33	54	31	<ul style="list-style-type: none"> <li>欧州での大手小売向けアジア食の販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sco-Froを軸にした英国小売向け商品の拡充</li> <li>欧州大陸各国での小売向け販路開拓の着手</li> </ul>
	営利	▲8	▲3	▲2		
農水産	売上	106	123	88	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外におけるリテイル販路拡大</li> <li>アジアを中心とした日本産/日本品種の農産物の海外販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BCMを通じたシンガポールでのリテイル販路の拡大</li> </ul>
	営利	▲4	▲2	▲4		
国内 BtoC	売上	0	0	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>取り扱いブランドのオムニチャネル販売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>顧客タッチポイントとしてのオンライン・オフラインのプラットフォーム構築に着手</li> </ul>
	営利	▲0	▲0	▲0		
その他 ソリューション	売上	0	1	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>BtoB/toC向けデジタルソリューションの開発</li> <li>食に関連する分野でのStartupとの協業</li> <li>病疾患・高齢者向け食品開発・販売 等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルサービスの開発</li> <li>PDCA体制を確立し、PoC段階のPJに対するゲートレビューを強化</li> </ul>
	営利	▲8	▲8	▲6		

	狙い	施策	金額(経費含む、億円)		
			'22年 実績	'23年 計画	3Q累計
1 事業領域の拡大	◆ 事業ポートフォリオの多角化	◆ 食とヘルスケア等が融合する部分での新事業の創出 (新ソリューション開発事業)	8	9	5
2 販路開拓体制強化 (地域間連携強化)	◆ メインストリーム等の販路強化、取引深耕に向けた事業戦略の構築 ◆ 各地域の組織経営力強化	◆ 欧州、中国における商品開発及びメインストリーム向け販路開拓 ◆ 海外地域マネジメント体制の強化	11	11	5
3 既存事業の収益力強化	◆ PB化の一層の推進 ◆ 健康志向商品等の開発	◆ 商品開発部門の充実	1	2	1
	◆ 業務効率化、情報セキュリティ強化 ◆ SCMオペレーションの精度向上	◆ SCM・ITインフラ投資	2	6	2
	◆ より顧客志向の強い組織の構築 ◆ 部門間を超えた社内連携の強化	◆ 組織の活性化・スリム化	1	1	1
4 既存事業から派生した新規事業の展開	◆ 海外市場の成長の取り込み	◆ 国内農産品の海外輸出の仕組みの構築	3	3	3
	◆ ニューノーマルに対応した外食業態の取り込み	◆ 外食向け新サービスの開発(ニューノーマルの食生活)	1	3	1
			27	35	18



Table of Contents



1. サマリー
2. 2023年12月期第3四半期 決算概要
3. **株主還元の方針**
4. (参考) 中期経営計画 (抜粋)
5. (参考) Wismettacグループについて

## 基本方針

- ◆ 将来の事業展開と財務体質強化のため内部留保を確保しつつ、安定的な配当を継続して実施
- ◆ 配当性向を重要な指標とし、通期で30%程度の連結配当性向を目安とする

## 配当予想

### 中間配当

期初予想から10円増配、  
中間配当として上場以来最高値の80円

### 年間配当額

年間160円 (上場以来最高値)

### 配当性向

通期連結配当性向(予想)は30.6%

### 1株当たり配当額

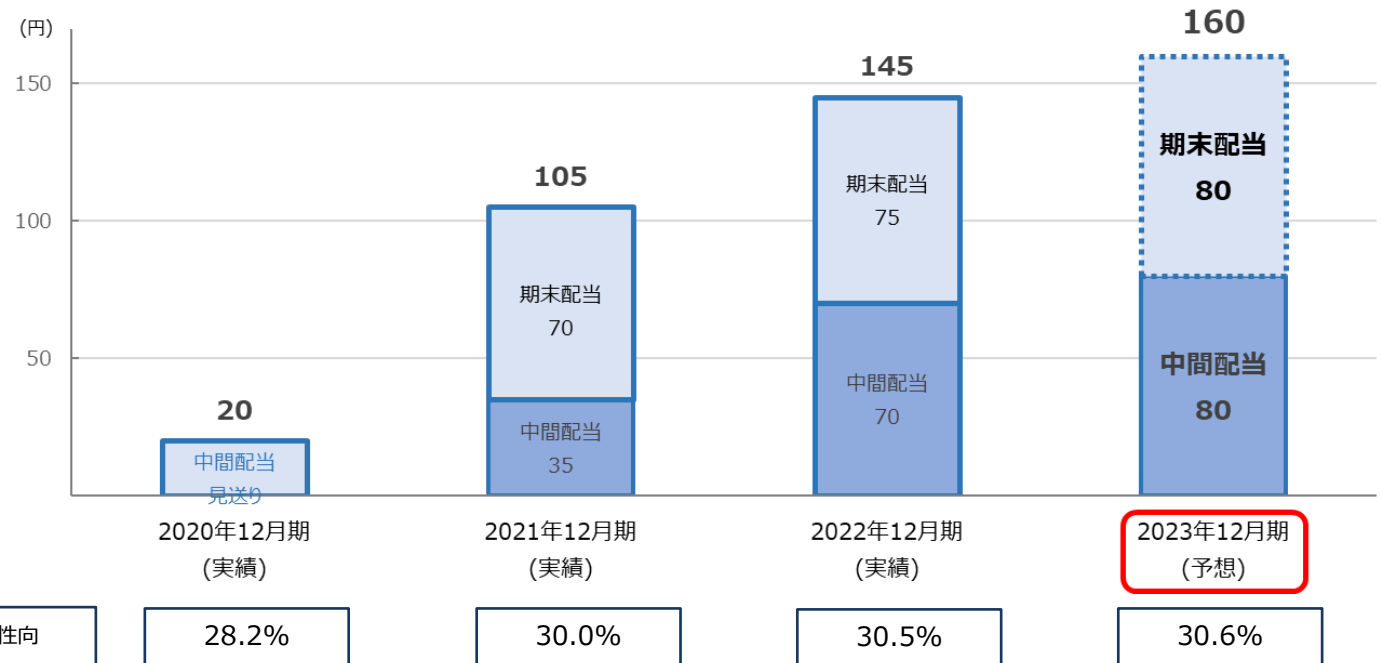
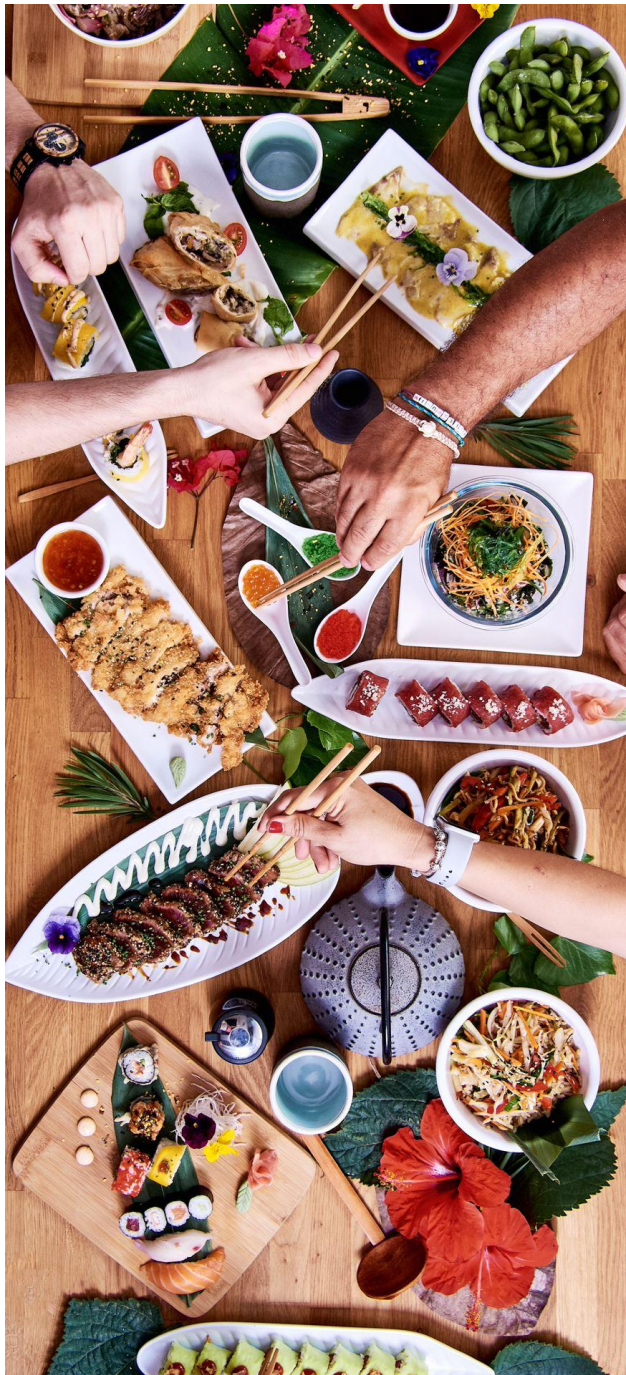


 Table of Contents

1. サマリー
2. 2023年12月期第3四半期 決算概要
3. 株主還元の方針
4. **(参考) 中期経営計画 (抜粋)**
5. **(参考) Wismettacグループについて**

中期経営計画 (2024-2026)  
資料はこちらのQRからもご確認いただけます



- アジア食グローバル事業(以下、AFB事業)において拡大が続く既存販路(うち、主としてメインストリーム)での売上増加、PB生産の拡充に加え、SCMのEtoEグローバル統合による商品原価の低減、及びデジタル化と物流省力化投資による販管費率の低減により利益率の2%引き上げを行い、**2026年に既存事業のOrganic成長<sup>(\*1)</sup>で売上高5,000億円・営業利益250億円**を達成する
- 上記に加え、営業CF・新規資金調達により**1,000億円<sup>(\*2)</sup>の戦略投資枠**を設定し、これを以下3領域を中心に集中投資する
  1. AFB事業におけるM&AやJVを中心とする未進出地域でのプレゼンス獲得、今後供給不足が懸念される商材への先行投資、R&Dケイパビリティ、RTE商品等の自社生産力向上投資、プラントベースシーフード/ミートや陸上養殖等の今後拡大が見込まれる上流への先行投資
  2. 独占栽培権を持つ日本の青果物の海外生産・海外販売事業への投資
  3. 食産業ソリューション事業、内外フードテックへの投資(シナジーのあるスタートアップ事業買収を含む)
- **自己資本比率30~40%、配当性向30%**を維持
- 金融リスク・市場リスク・地政学リスク等をマネージし、不確実性に対応

<注記-1> 中期経営計画の**期中平均想定為替レート**：USD=135 JPY

<注記-2> **日本からの輸出商材が北米AFB事業に占める割合は15%であり、国内で輸入販売を行っている青果事業等と為替持高を相殺することにより、米ドル/円の為替変動が当グループの業績に与える実質的な影響は極めて小さい<sup>(\*3)</sup>**

<注記-3> 今後、当社の中計は3年間固定方式とし、次回中計(2027-2029)は2026年以降公表を予定<sup>(\*4)</sup>

(\*1) 実施予定のM&Aを含む

(\*2) 2023年末の現預金残高は1,000億円を見込む

(\*3) 為替変動により生じる海外子会社の財務諸表の換算が連結業績に与える影響を除く

(\*4) 大きな経営環境の変化により必要と判断する場合は、計画を変更/公表



# 3ヶ年事業計画 (Organic)

※新規M&A等の寄与分は除く



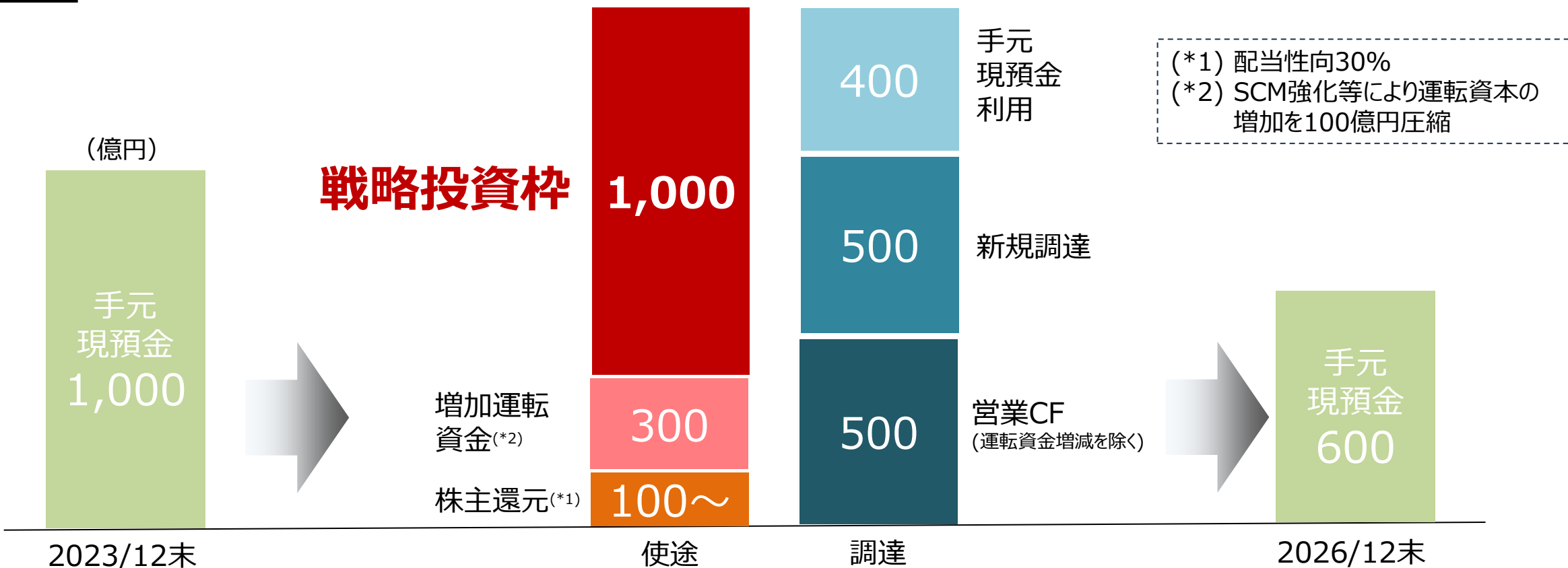
(億円)

	2022年 実績	2023年 見込	2024年 計画	2025年 計画	2026年 計画
売上高	2,752	3,040	3,540	4,300	5,000
営業利益	105	120	150	190	250
営業利益率	3.8%	3.9%	4.2%	4.4%	5.0%
ROWC	21%	21%	24%	27%	31%

(為替前提 : USD=135 JPY)

既存販路の拡大・PB生産の拡充等に加え、可視化によるデータ重視マネジメント、  
物流の省人化投資により、成長と無駄の徹底排除を加速させ、  
**2026年に売上高5,000億円・営業利益250億円を達成**

# キャッシュマネジメントとアロケーション方針



## 1,000億円の戦略投資枠を設定して、以下3領域に集中投資

1. AFB事業におけるM&AやJVを中心とする未進出地域でのプレゼンス獲得、今後供給不足が懸念される商材への先行投資、R&Dケイパビリティ、RTE商品等の自社生産力向上投資、プラントベースシーフード/ミートや陸上養殖等の今後拡大が見込まれる上流への先行投資
2. 独占栽培権を持つ日本の青果物の海外生産・海外販売事業への投資
3. 食産業ソリューション事業、内外フードテックへの投資 (シナジーのあるスタートアップ事業買収を含む)

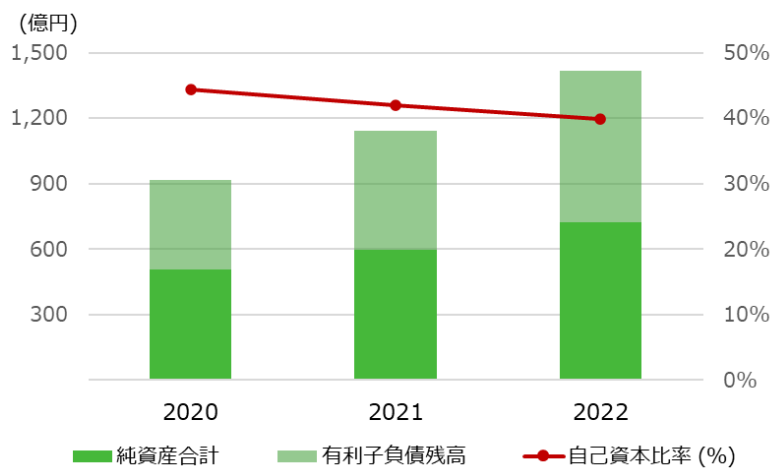
## 基本方針

プライム市場において、持続的な成長を図るため、健全な財務基盤を維持しながら、積極的事業拡大に向けた投資と安定的な配当を両立させる

## 目標値

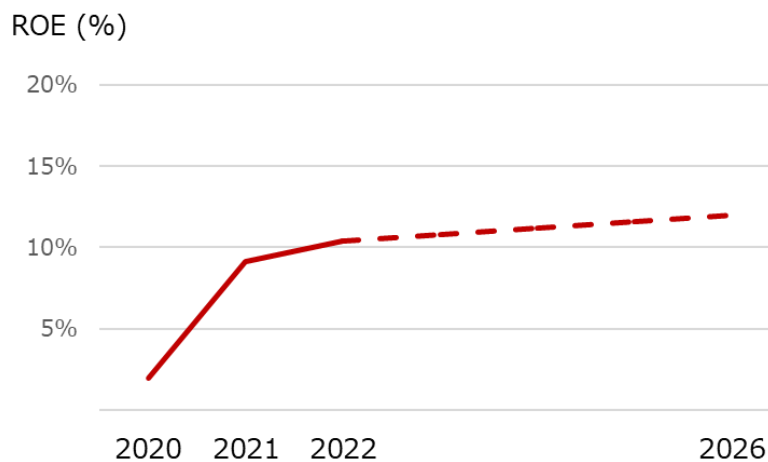
**自己資本比率30~40%**  
(2023/6末現在 42%)

堅固な財務基盤を維持



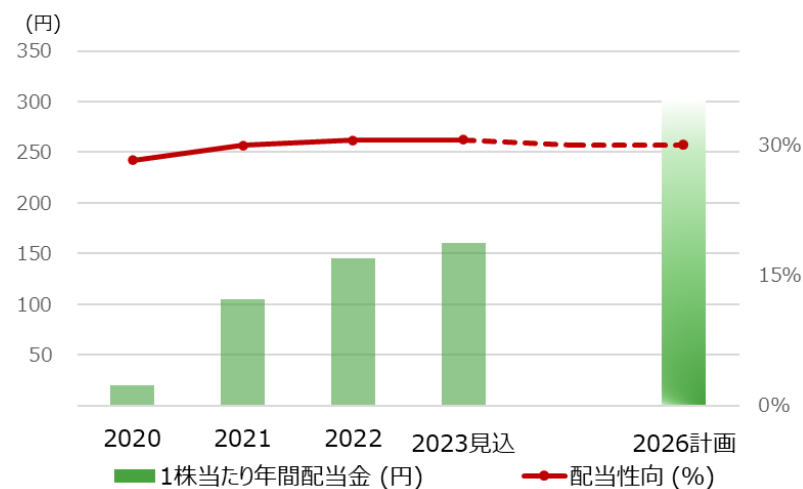
**ROE 10%以上**

コロナ禍除けば、目標水準を達成



**配当性向 30%**

上場来、コロナ禍含めて  
30%を維持



## 為替 リスク

- グループ会社間取引における為替マリー(\*)の活用、三国間取引を行うことにより、ビジネスへの実質的な影響をヘッジする
- 海外AFB事業における日本からの商品調達比率は15%(現状)程度を維持する

(\*) 外国為替の売り持高と買い持高を結びつけることによって、為替持高を相殺。利益への影響は軽微。

## 金利 リスク

金利動向・支払利息への影響の把握、及び最適な資金調達を実施する  
(金融環境の変動を受けにくい財務政策を実施)

## 地政学・ 気候変動 リスク

調達先の地域的集中を避け、同一商材をマルチソース化することにより、地域紛争・気候変動リスクを回避する（既に多数の主要商材で実施）

# 2035年に向けて

世界に名だたる食のグローバルソリューションカンパニーへ

売上2兆円超へ

中計'26(2024 - 2026)



売上：5,000億円  
営利：250億円

売上：3,040億円  
営利：120億円

食のグローバルSPAへ

食のグローバルソリューションカンパニーへ

## ④ メディカルフード(\*)事業領域の基盤生成

- 誰もが等しく美味しく食べられる食の開発・提供
- 産学連携やIP(知的財産)を活用した事業化

## ③ 新規事業創出による成長

- デジタルやフードテック等の新技術を活用したソリューション事業の創出 (3年間で10事業)

## ② 青果事業のグローバル展開推進

- 知的財産権を活用した日本の青果物の海外生産及び、海外販売事業を新たな収益の柱として育成
- 青果卸売事業の収益構造の多様化・安定化

## ① 既存事業の量的・質的成長加速

- 営業力・商品開発力強化による新規市場・販路開拓
- PB拡充と物流費低減による粗利率向上
- SCM強化と販売・輸出入業務のデジタル化・AI化による経費率低減
- 潤沢な自己資本・現預金を活用したM&A等による事業規模拡大

(\*) 医学的観点から特殊な栄養摂取の要求に対して設計された食品

2023 2026 2029 2032 2035



## Table of Contents

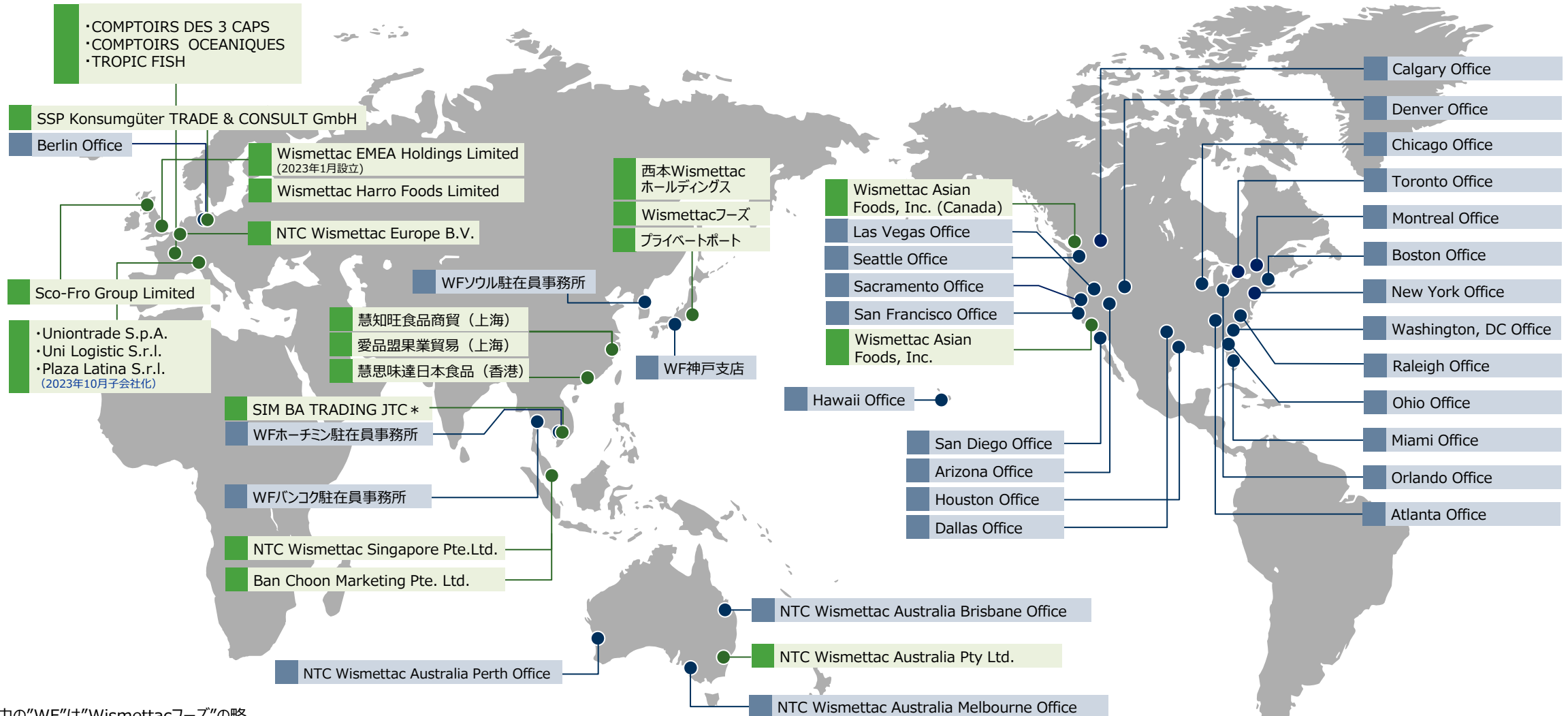
1. サマリー
2. 2023年12月期第3四半期 決算概要
3. 株主還元の方針
4. (参考) 中期経営計画 (抜粋)
5. (参考) Wismettacグループについて

◆ 明治45年(1912年)に創業後、世界市場に食材・食品を供給するグローバル企業へと成長

社名	西本Wismettac (ウィズメタック) ホールディングス株式会社 (東証プライム 9260)	
本社	東京都中央区日本橋室町三丁目2番1号 日本橋室町三井タワー15階	
創業	1912年5月	
代表者	代表取締役会長 CEO 洲崎 良朗	
従業員数	2,004名 (うちアジア食グローバル事業：1,541人) [2022年12月末時点]	
事業内容	<p>◆ アジア食品の開発及びグローバルでの販売</p> <p>◆ 青果物全般(フルーツ、野菜、その他加工品)の輸入販売、食品メーカー並びに外食産業向けの食材の供給</p> <p>◆ その他国内向け販売(アメニティ商品、サプリメント、メディカルフード等)</p>	
子会社、関連会社	子会社24社、関連会社1社 [2023年10月末時点]	
拠点所在地	世界46か所 (うち北米拠点：24か所) 日本・米国・カナダ・シンガポール・オーストラリア・オランダ・英国・ドイツ・フランス・イタリア・中国・香港・タイ・ベトナム・韓国	
連結売上高	2,752億円 [2022年12月期]	* 海外売上比率79.6%
連結経常利益	108億円 [2022年12月期]	
自己資本比率	39.9% [2022年12月期]	

# 国内・海外のWismettacグループ

◆ 北米、欧州、豪州、アジアにおいて46拠点を有し、グローバルに事業を展開。北米(アメリカ・カナダ)は24拠点を有し、売上の過半以上を占める

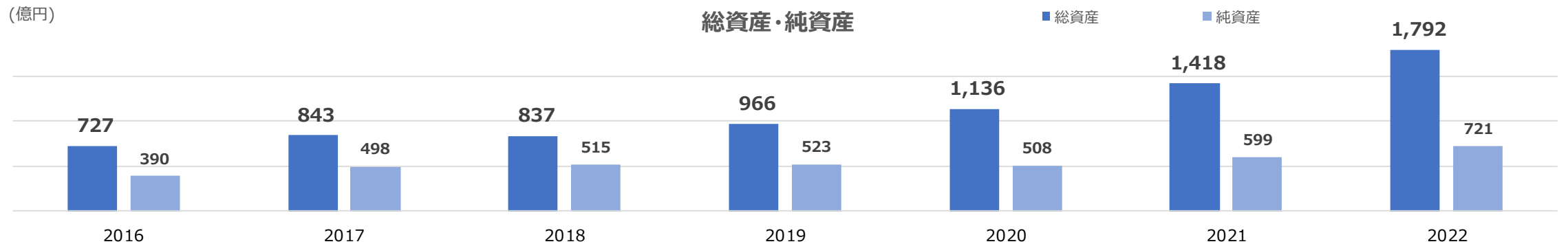
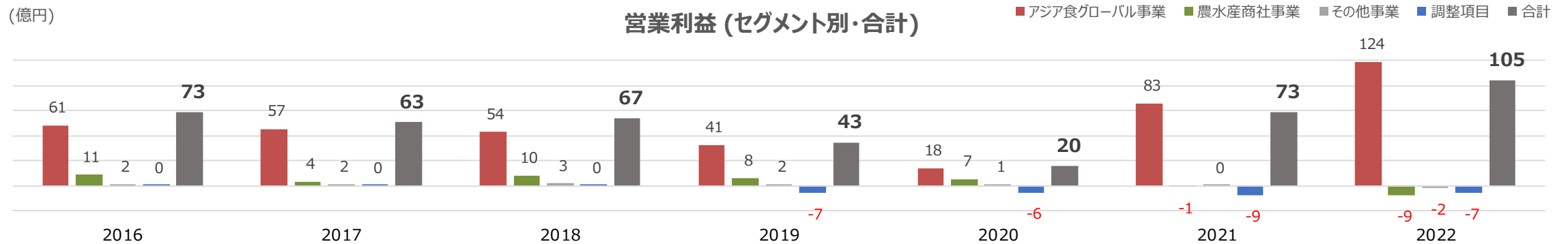
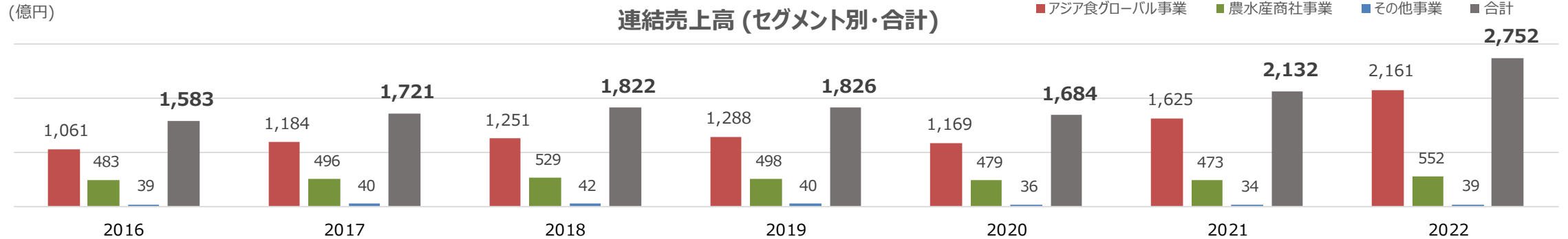


図表中の“WF”は“Wismettacフーズ”の略

\* 持分法適用関連会社



# Wismettacグループ成長の歩み - 業績推移 -



## 注意事項

本資料は、西本Wismettacホールディングス株式会社および関係会社(以下当社)の財務情報、経営情報等の提供を目的としておりますが、内容についていかなる表明・保証を行うものではありません。

本資料に掲載されている当社の計画や戦略、業績の見通し等は、将来の予測等に関する情報を含む場合があります。これらの情報は現在入手可能な情報に基づくものであり、経済動向、業界での競争、市場需要、為替レート、税制や諸制度等に関わるリスクや不確実な要素を含んでいます。従って、将来、実際に公表される業績等はこれらの種々の要素によって変動する可能性があり、当社はこれらの情報を使用されたことにより生じるいかなる損害についても責任を負うものではありません。なお、当社は、新たな情報や将来の事象により、本資料に掲載された将来の見通しを修正して公表する義務を負うものでもありません。

資料の作成には、当社は細心の注意を払っておりますが、以下の点についてはあらかじめご了承ください。

- 掲載した情報に誤りがあった場合や、第三者によるデータの改ざん、データダウンロード等によって生じた障害等に関し、当社は事由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 日本語版と英語版の両方が公表されている資料について、日本語版と英語版に相違がある場合は日本語版を正とみなすものとし、翻訳による誤解から生じたいかなる損害についても責任を負いません。

本資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定はご自身のご判断で行うようお願いいたします。

### 【お問合せ先】

西本Wismettacホールディングス株式会社

経営管理室 03-6870-2015

Email (代表) : <https://www.wismettac.com/ja/contact.html>